

2023 年度
グローバルスタディーズ専攻
夏期短期語学留学

成果報告集

2023 年 9 月

追手門学院大学国際学部

はじめに

この資料は、追手門学院大学国際学部において2023年9月13日（水）から15日（金）にかけて開講された集中講義「留学特別演習2」から生まれた成果物の一つです。この科目を受講したグローバルスタディーズ専攻の学生27名は、7月23日から8月12日までの期間（移動日を含む）に米国に渡り、カリフォルニア大学バークレー校（University of California, Berkeley; UCB）において短期語学留学プログラムを受講しました。

帰国後の授業である留学特別演習2では、留学を共に振り返り、成果を「見える化」することを目指しました。ここでいう「成果」には、留学を通じて学んだこと、反省点、この経験を今後どう活用したいか、などあらゆることが含まれます。「見える化」とは、主として言語を通じて表現することを意味します。

学生たちは留学特別演習2の授業のなかで、複数の手段によって振り返りと見える化をおこないました。このうち、質と量の両面においてもっとも重厚な形で見える化されたのが「留学報告書」です。共通の項目に関して、合計3,000～5,000字の範囲で一人ひとりが執筆するという課題でした。そして、全員の留学報告書を集めたのが本資料です。

学生たちが、それぞれの体験を自分の言葉で綴り、この貴重な報告集が出来上がりました。大切な思い出の記録になることでしょう。お世話になった人たちへの感謝の手紙のような意味もあります。そして、いずれ読み返してみることで、新たな気づきが生まれることでしょう。見える化しておくことの意義の一つがそこにあります。自分たち自身だけでなく、近い将来に留学を希望している人たちにとっても大いに役立つ知見の数々が、この報告集のなかに散りばめられています。

では、ページを開いて、学生たちが持ち帰った知見を探す旅に出てみましょう。

執筆者一覧（計 27 名）※留学成果報告会での発表順

岩瀬 杏夏

胡 萌衣

山田 栞

川口 ミーリン

西村 萌那

田上 隼空

剛 彩音

岩下 陽香

中村 波菜

大塚 優珠

萬木 綱平

中野 幹太

岸崎 光有

谷 聖騎

露口 海吏

京田 莉恋

出水 健嗣

白川 亮太

萱原 悠太

三木 彩菜

広瀬 雅実

中西 麻友

金森 亮希

伊原 大翔

南原 茉維菜

新井 さくら

片木 晴斗

氏名：岩瀬 杏夏

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

日本に比べて大変過ごしやすい気候で、夏の室外でも汗ばまず快適でした。ただ夜から朝方にかけては肌寒かったりかなり冷え込む日もあったりするので、上着やなにか羽織るものは必須でした。また日差しがかなり強いので、帽子を被ったり日焼け止めを塗ったりするなどの対策も行った方が良いです。私は面倒くさがって一切そのような対策をしなかったもので、日焼けをして真っ黒になってしまいました。ホームレスの人があちこちにいて、寮から大学に向かうまでの道でさえいました。朝でも夜でも時間や曜日に関係なくいました。貧富の差が大きいのかなと思いました。大学の印象としては、アメリカならではの自由な校風で、親や先生に言われたからなどではなく、みんな自ら進んで学びたいことを学びに来ているという印象でした。日本のように規則や校則が厳しすぎないので、みんなのびのびと生活しているようにも見えました。また、大学内のカフェの店員さんが本当にフレンドリーで、身に着けているものを褒めてくれたり帰り際に一声かけてくれたりしたので、毎日とても気分が良かったです。たいていのことは許されていましたが、教室内で食べ物を食べてはいけないと知った時は驚きました。飲み物は可能でした。敷地内には、木や花などの多くの自然がありました。大学内のボタニカルガーデンに行ったのですが、本当に大学内なのかと疑うくらい敷地が大きかったし美しかったです。サンフランシスコに出ると急な坂がとても多かったです。一度歩いて上ったが本当にしんどくて、車や電車、バスといった交通手段は必須だと感じました。同じカリフォルニアでも少し移動するだけで気候が全く違って驚きました。ですがパークレーは本当に過ごしやすすぎて日本に帰りたくなるほどでした。

2. 授業やその他活動の概要

より専門的な英単語やその用途を学ぶ授業と、実際に学外のカフェや美術館に行ってアメリカのことを詳しく学ぶ授業の二つを受講しました。前者の授業を担当してくれた先生が本当に大好きで、私の誕生日にクラスみんなでバースデーソングを歌おうと提案してくれたり、プレゼントにクッキーをくれたりして、英語以外の、人間として大切なことを彼女から多く学びました。また最終日には大学内のボタニカルガーデンに連れて行ってくれ、みんなで別れを惜しみました。私は自然が本当に大好きなので、あのような機会を設けてくれたことには本当に感謝しています。授業内でつたない英語で質問しても、丁寧に詳しく私

サンフランシスコでは町を探索し写真を撮りました

この授業では地下鉄を使って移動することが多かったので道中に他の留学生と仲良くなれる機会があったので友達を作るチャンスです。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

留学で学んだことは大きく二つあります。

まず、一つ目は文化の違いです。日本とアメリカでは文化は全然変わってきます。例えば、日本ではチップ制度というのはあまり浸透していなく、日常の中でチップを払うことは滅多にありません。しかし、アメリカではレストランなどの飲食店に行ったら、お会計の際にどれだけチップを払うかを提示されるくらいチップが日常では当たり前物となっています。他にはホームレスの人が街中にたくさんいたり、日本では違法な薬物がアメリカでは合法だったりと驚くこともたくさんありました。日本では正しいことでも、他国の留学生の人にとっては良くないことだったりすることもあったので、それも学びました。これらの文化の違いは日本にいては、経験できなく、これからのグローバル社会に向けても文化の違いを学べたのは良いことだと思いました。

2つ目は、積極性です。留学を通して一番感じたことはこれでした。私は誰にも人見知りすることなく、話しかけたりするのは得意な方でしたが、英語でとなると苦手意識が生まれ話しかけることが出来なくなる部分がありました。しかし、なんでも行動を起こさないと周りには誰もいないままだし、まず話しかけることが大事だと思いました。今思えば、定型文とかを使って話しかければよかったと思いました。多少発音や文法は間違っても、相手は理解してくれるし、恥ずかしさを捨ててでも話しかけに行くことは大事だと学びました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

自分で考える留学での成果は、間違いを恐れなくなったことです。留学に行く前の自分は、英語を喋ることにに対して抵抗がありました。それは間違った文法で英語を話すことは恥ずかしいと思っていたからです。しかし、授業でのグループワークやペアワークなどをこなしていく中で、とにかく文法は間違っても相手に伝えることが大事だというのに気づきました。それからは、積極的に間違いを恐れることなく話しかけに行った結果、何人か友人も出来て一緒にご飯を食べに行ったりもしました。自分が気にしていた文法の間違いとかは、現地の人には思ってるよりも気にしていなく、留学前は英語を話すことに自信がなかった自分も留学を経て、克服できたと感じました。

今回の留学での反省点は、留学生の人や現地の学生の人との関わりをもっともつべきでした。授業を通して仲良くなった人は沢山いましたが、休日に遊んだりすることが出来なかったのもっと自分から積極的に誘ったりすればよかったと思いました。勇気を出して積極的に現地の人と話していたつもりでしたが、もっと人付き合いを大切にすればよかった

を考えるとということをしました。日常会話の微妙なニュアンスの違いを指摘されることで、英語の能力の向上をはっきり感じました。

バークレーエクスペリエンスではこのバークレーとその周辺のベイエリアの文化と歴史について実際に見て知り、学ぶという内容でした。授業でバークレー内には多数の美術館博物館があることを知りました。中には日本の文化について展示している博物館もあると現地の学生にすすめられたので、是非どのような場所か機会があればまた行ってみたいです。私たちが行ったバークレー美術館ではバークレーの文化や歴史、自然が様々な形で表現されており、説明がわからなくても絵に込められた力を感じ取ることができました。この授業で一番印象に残っているのは人々の自由や平等を求めた行動でした。何かを変えようと施設の占拠など、少し強引だと感じる手段を使いながらも行動に出た歴史は称賛されるべきで、その見習うべきところがあると感じました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

今回の留学で、私はアメリカ人の積極性にとっても驚かされました。実際に思ったことをはっきり言う、こういった場面に何度も出会いました。ある日、寮に帰ろうとしたバスのなかで、乗客とバスの運転手が乗客の発した運転手に対する差別的な発言に対して口論になっていました。日本だと運転手が黙って受け流すところですが、ここでは違いました。最終的に互いに和解し落ち着きましたが、どうなっていたかわかりませんでした。自分の思っていることをはっきり言うことは喧嘩に発展したり、悪い結果をもたらしたりする場合もあると考えています。ですが、互いに理解しあえたり、何かを変える力も持っています。その最たる例が、バークレーエクスペリエンスで学んだバークレー校での障害者の自由を求めた運動でした。バークレー校に在学していたロバートは、障害者が大学内でまともに学習できる環境を持っていない現状に不満を抱き、障害者学生グループを作り大学と争いました。この行動により今のバークレーの障害者でも学習できる環境があります。こういった、自分の考えや気持ちを言葉にして、行動を起こすことはとても見習うべきことだと感じました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

今回の留学ではバークレーの良さを十分に感じられた良い留学だったと考えています。バークレー校の様々な学問に関する博物館にあまりいけていないことは残念でしたが、まだまだ学ぶことの多い、学習に適した場所であることがわかりました。文化や歴史も非常に興味深かったです。こういったものを深く理解するには英語力が足りませんでした。ですが、英語を勉強することによって知ることのできる世界の姿を外側だけでも見聞きすることができて、英語学習に対するモチベーションが非常に上がりました。

海外の友人を作ることができなかつたのがとても心残りでした。一人の中国から来た留学生と少し会話をすることができ仲良くなれましたが、あまり会話の内容を聞き取れず、会

省しています。もっといろんなところにお出かけするともっとアメリカのバークレーについて知れたかもしれないし、たくさんの人とコミュニケーションをとれたかも知れません。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今後、自分は留学を経験した。自分が英語を聞き取ることが苦手だと思った、英語で話がスムーズにできるようになりたいので今後はシャドーイングや英語圏の Kids Movie などを利用して、積極的に聞いたりしたいです。あとこれからは毎日英語に触れて行って留学が意味のある物だったといえるように勉強を頑張りたい。また今回アメリカの留学を経験したことによって慣れていないことに積極的に挑戦したりすると毎日が充実するようになることがわかったのでたくさん時間がある大学生のうちにいろんなことに挑戦してみようと思った。

6. 謝辞

まずこのような留学を行う機会を与えていただきありがとうございました。現地で僕たちの手助けをしてくれたショーンと千佐子先生はいろいろ現地のことについて教えてくれました。ありがとうございました。引率してくれた JTB の方たちはとても丁寧に引率してくださりありがとうございました。僕たちの留学はたくさんの人に支えられてできたことなので留学に携わったすべての人にお礼をもうしたいです。

氏名：南原 茉維菜

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私たちが留学したカリフォルニア州では私が想像していたよりも丁寧に接してくれる人が多いという印象を持ちました。寮についた日に部屋割りに関して少しトラブルがあったのですが、直接部屋に来て私たちの伝えたいことや聞きたいことを最後まで聞き、わかりやすく説明するなど私たちが不安を持たないように対応してくださり、最初からとても良い印象を持ちました。生活を送るにつれて出かける頻度も高くなり電車内やすれ違いざまに軽い会話をするが増えたのですがそのような出来事を通してこの地域の人たちは気さくな人が多いという印象も持ちました。

また、大学を始めて見たときは想像の何倍も面積が広く迷いやすそうという印象を持ちました。大学内に時計台や道路があり驚きました。授業を受けていくうちに気づいたのですが、日本ではほとんどの学生が授業の始まる5分前には教室内にいるという状況が多いのと反対にカリフォルニア大学では授業に2~3分遅れてくる人が多く先生も気軽にあいさつを交わしていたので、時間に縛られていない人が多いという印象を持ちました。

2. 授業やその他活動の概要

月曜日から木曜日9時半から12時までの一限目は Academic Vocabulary という授業でした。そこでは、一般的に使われる英単語ではなく学術的、専門的な英単語を学びその英単語に接続されている接頭辞の意味を調べ同じ意味合いの接頭辞が使用された英単語を探すなどの根本的なものを教わったほかにこのようなシチュエーションの時にどのように返答するか、どんな会話をするか私たち学生をグループにして考えさせグループごとに発表してどのフレーズが間違っているか、どのようなフレーズを使えばよりネイティブに近い会話の実現が可能かをひとつひとつ解説してもらった内容がありました。また火曜日と木曜日の週二回ある二限目の Berkeley Experience は先生が一方的に話してそこで聞いたことをそのまま学びにするのではなく大学内に設置されているユニバーサルデザインが施されたものをいろんな国籍が混ざったグループで探していく、美術館やストリートアート、街に足を運び歴史やその場の風景などの情報を自分の視覚で直接手に入れ感じたことを自分の英語でまとめるなど、今までの自分の中での常識を覆されたり、日常に潜んでいる素晴らしいものを見つけたりと自分の価値観に幅広い学びをプラスするような授業でした。

文化の面では、とてもフランクな方が多く、こちらから話しかけるととても笑顔で気軽に話してくれる方が多かった印象でした。表情豊かで、身振り手振りを使って伝えている人が多かったです。また当然ですが、アメリカは多民族国家のため様々な人種の人々が共存していました。そして何より物価が高かったです。また日本のように安くて美味しいものが少なく、高いお金を払っても口に合わないものもあり初めは慣れるのに時間がかかりました。お店で食べ物を注文するときでも、「How are you?」や「Hi young woman.」や「いい買い物だね」など日本の接客ではあまり言われたことのない言葉で気さくに話しかけてくれました。また多民族国家だからなのか本屋さんでは子供向けの本に肌の色や文化の違いがあってもみんな同じ人間というようなメッセージが込められたものを取り扱った内容の書籍がいくつかありました。また驚いたのが、服屋さんに行って服を買った際、袋に服を入れるとき畳まずにそのまま放り込んで服を入れていたのがとても面白かったです。また現地の方や他の留学生の多くは、自分の思ったことをストレートに伝えていて建前や余計な遠慮をしないところがとても素敵だなと感じました。また、授業内でも自らが主体的となって授業内容の提案をする人もいて、あらゆる活動において積極的な人がとても多かったです。そして街中で見かけるほとんどの人は比較的ラフな服装の人が多かったです。以前、アメリカの方は大学に行くときはメイクやおしゃれをしたりする人がそれほど多くないと聞いていたのですが、本当にそうで驚きました。また日本で多く見かけるファッションをしている人はほとんどおらず、流行りのY2Kファッションやフレンチガリーなファッションなど、多種多様でそれぞれ個性が引き立つファッションをしていて、街中を歩くのがとても楽しかったです。また街中には、日本で絶対見かけることの無いドラックフリーゾーンがありました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、大きく分けて3つあります。まず、英語に慣れ、英語の文章を見ること、英語を聞くことと使うことの抵抗が減ったことです。やはり現地では英語を使わなければ通じない環境だったこともあり、英語を使う機会が多かったことから、どんなに英語に自信が無くても強制的に話さなければいけなかったため、英語に対する抵抗が少なくなりました。また、現地では英語が沢山飛び交っていたので、次第に完璧な解釈が出来ず理解出来なくとも、以前より単語をはっきり聞き取れているように感じました。次に、決められた限られた時間で物事を考える力と実践力が備わったことです。これは1コマ目の授業の影響が大きかったように感じます。授業内で、その場でシナリオを考えて自分達で演じてみるというのを何度も行ったため、それが限られた時間でこなす訓練になったと思います。最後に、コミュニケーション能力が高まったことです。まず3週間一緒に時間を過ごしたため、GSの子達と以前より気軽に話せるようになりました。また他の留学生とも交流する機会が多かったため、自分から話しかけに行く機会が多く、以前に比べてフランクになったように感じます。

生が強めることにつながったと思います。ゲスト講師のかたがたには、「留学において役立つ英語表現のワンポイント講座」も事前に依頼しました。それらの英語表現には、コミュニケーションを円滑にするためのコツが含まれており、大いに参考になるものでした。貴重なお話をいただいたゲスト講師各位に感謝いたします。ありがとうございました！

もちろん、他の英語科目や演習科目、さらには TOIEC 課外講座などを通じて留学への準備が全体として進んだのであり、そこに多くの人たちの貢献があったことと存じます。

今回の夏期短期語学留学は完了しましたが、みなさんの大学生活は続きます。そして、人生も続きます。留学体験は自分の人生に果たしてどのような影響を与えたのか？ この問いに対する答えは、少々大げさに言うならば、一生かけて見つけていくものかもしれません。何年後か、あるいは何十年後かにみなさんがこの報告集を再び読み返し、2023 年夏の留学体験の意味を改めて考えてみる機会があると素敵だろうと思います。

みなさんの中には、今回の体験を生かして、より本格的な留学に挑戦したいという気持ちを新たにした人たちがいます。目標の実現に向けて、ぜひ前に進んでいってほしいと願っています。留学が本格的なものになればなるほど、得られる成果も大きくなるはずですが、同時に困難も大きくなります。ここでいう困難には金銭面など様々なものがあり、そこに精神的な大変さも含まれます。すべてが薔薇色の留学というものは恐らくありません。本格的な留学を目指す人は、これらの困難に立ち向かっていく意志と覚悟を持って、ぜひ実現してもらいたいと思います。その価値がきっとあります。

末筆ですが、今回の夏期短期語学留学や、その前後の留学特別演習の実施にあたっては、学生のご家族、UCB、JTB、国際連携企画課、教務課、松宮新吾学部長はじめ国際学部教員各位など、非常に多くの人たちのご尽力がありました。学生たちも報告書で感謝を述べていますが、ここで改めてみなさまへの敬意と感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

2023 年 9 月

追手門学院大学国際学部
北村 健二